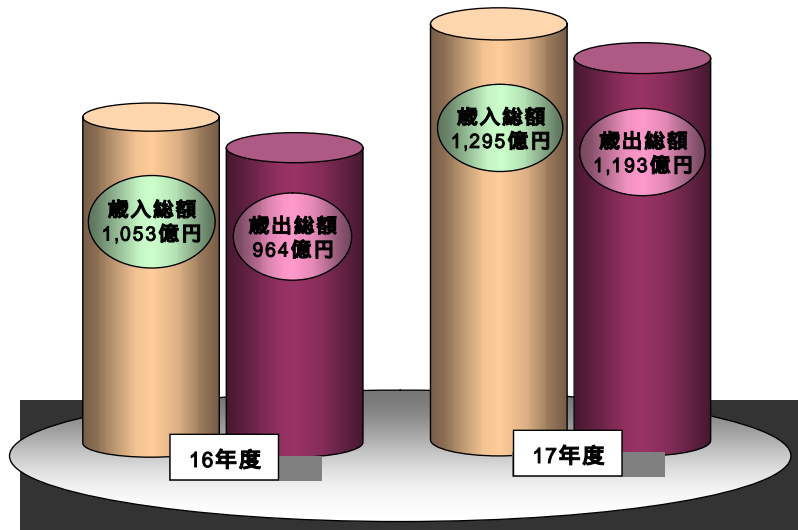


平成17年度決算 港区財政レポート - 公会計手法による分析 概要版 -



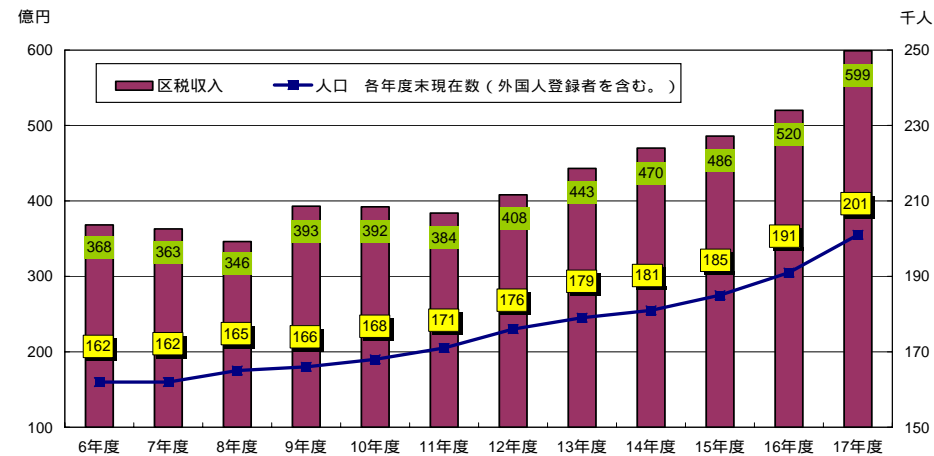
平成17年度決算額は、16年度と比べ歳入、歳出とも大きく増加しました。



歳入

近年の人口の増加等により、特別区税収入が大幅に増加しています。

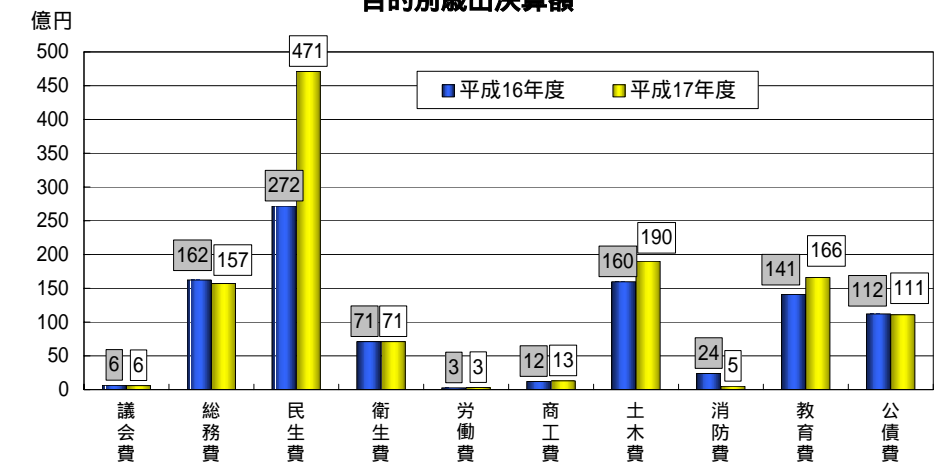
特別区税収入及び人口の推移



歳出

施設用地の積極的な購入により、民生費、土木費及び教育費が大幅に増となりました。

目的別歳出決算額

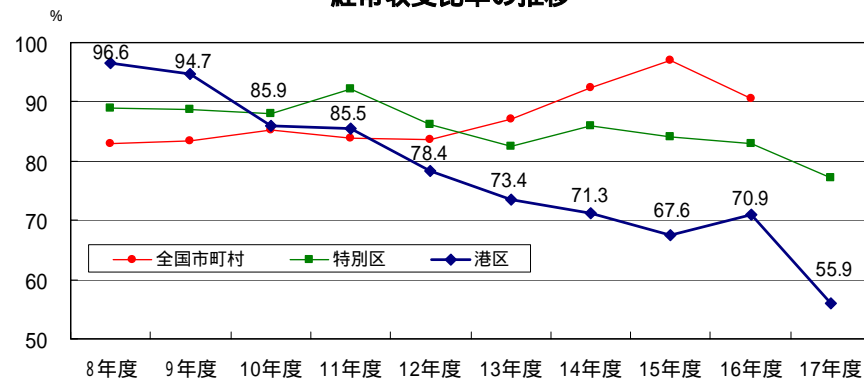


財政指標

経常収支比率は、50%台となっており、より弾力性に富んだ財政状況に推移していることを示しています。

経常収支比率 一般に、この値が低いほど望ましいとされています。

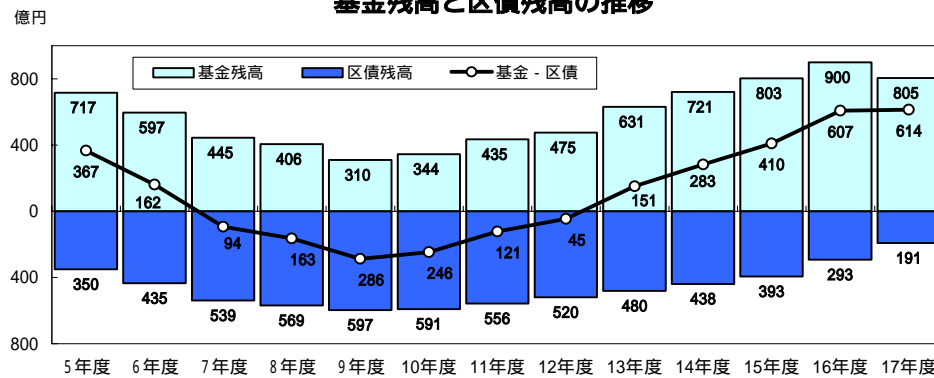
経常収支比率の推移



基金・区債

基金(区の貯金)残高は、用地等の購入のために活用した結果805億円となりました。また、区債(区の借金)残高は、平成16年度に引き続き、積極的に償還を行ったため、大きく減少しました。

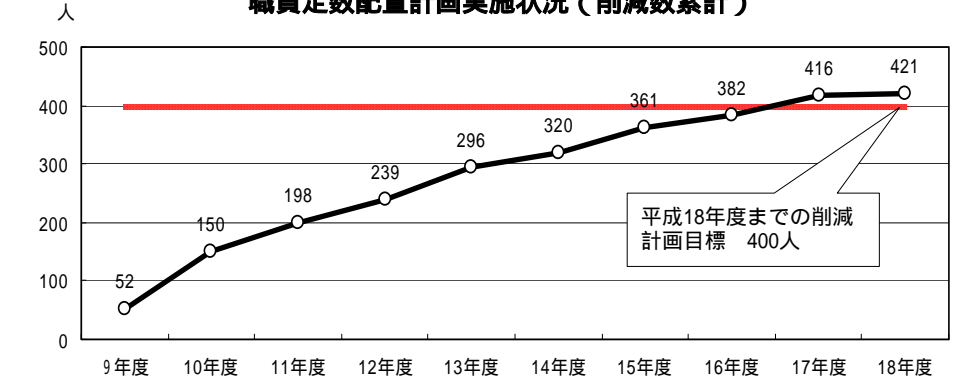
基金残高と区債残高の推移



人件費

「職員定数配置計画」の着実な実施により、職員人件費の抑制に努めています。

職員定数配置計画実施状況(削減数累計)



事業別活動報告

事業	行政コスト	収入	純行政コスト
清掃事業	総額 4,151 百万円 区民1人あたり 21 千円	728 百万円	総額 3,423 百万円 区民1人あたり 17 千円
公園	総額 3,739 百万円 区民1人あたり 19 千円	1,295 百万円	総額 2,444 百万円 区民1人あたり 12 千円
教育センター	総額 145 百万円 区民1人あたり 723 円		総額 145 百万円 区民1人あたり 723 円
福社会館	総額 800 百万円 延べ利用者1人あたり 2,045 円	36 百万円	総額 764 百万円 延べ利用者1人あたり 1,954 円



問い合わせ

港区総合経営部財政課
電話 3578-2111 内線2098

平成17年度決算 港区財政レポート - 企業会計手法による分析 概要版 -

「公会計」に基づく
決算書

当年度の現金の収入と支出はわかりますが…

- 過去から蓄えてきた資産や、将来の負担がわかりにくい
- 行政サービスに実際にかかったコストがわかりにくい などの問題があります。

そこで 港区では、

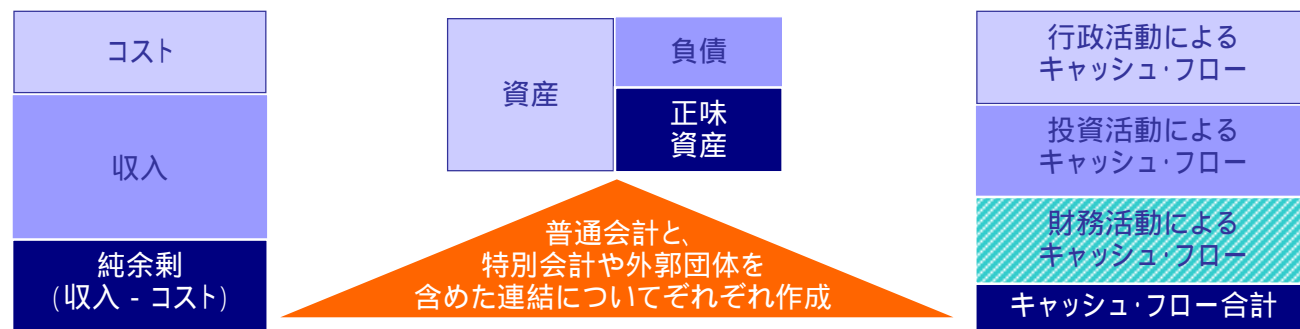
発生した費用や収入に基づく「企業会計」手法によっても
分析し、財務諸表を作成・公表しています！

【 企業会計とは？ 】

行政サービスのコストと
収入をみる「行政コスト計算書」

資産と負債のバランスをみる
「バランスシート」

現金の収支をみる
「キャッシュ・フロー計算書」

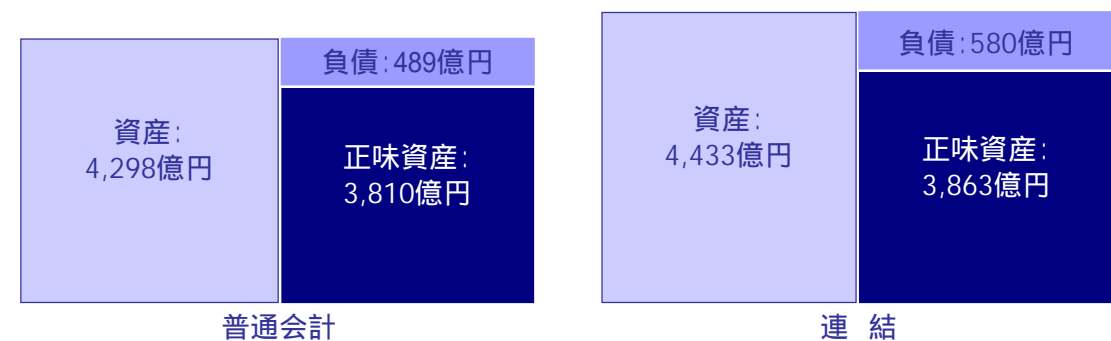


【 バランスシート 】 健全な区の財政

将来へ引き継ぐ資産から、将来の負担である負債を差し引いた正味資産は、普通会計で3,810億円、連結で3,863億円となりました。

普通会計・連結ともに、資産は負債を大幅に上回っており、区の財政は健全であると言えます。

普通会計と連結のバランスシートの概要



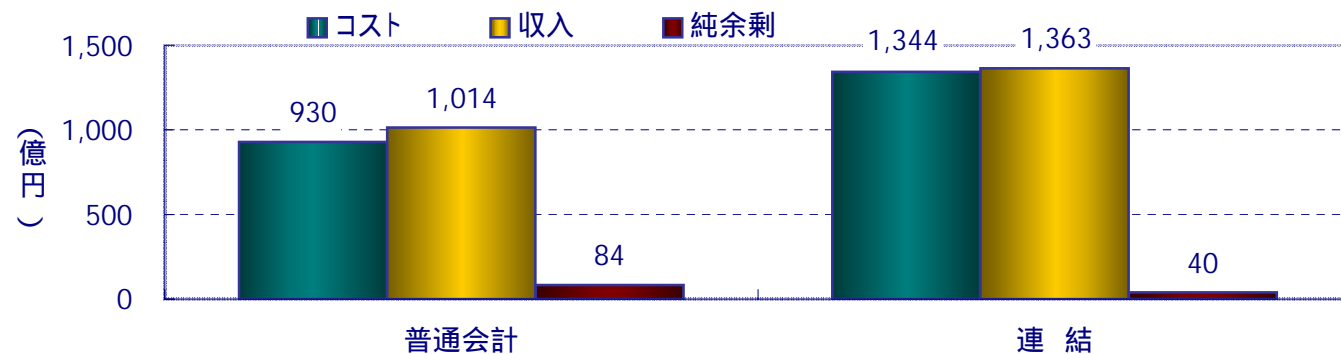
()連結の正味資産には、外部株主持分(9億円)が足されています。

【 行政コスト計算書 】 収入の範囲内で行政サービスを提供

普通会計・連結ともに、行政サービスの収入がコストを上回っており、収入の範囲内で行政サービスを提供できていることがわかります。

連結の純余剰は普通会計の約半分となりましたが、これは外郭団体が特別損失を平成17年度に計上したためです。この特別損失がなくなる平成18年度以降、連結のコストは減少し、純余剰は改善すると見込まれます。

普通会計と連結の行政コスト計算書の概要



()連結の純余剰には、外部株主損失(20億円)が足されています。

【 キャッシュ・フロー計算書 】 安定した資金繰り

普通会計・連結ともに、行政活動による現金の収入で、投資活動と財務活動の現金の支出を賄うことができおり、区の資金繰りは安定していると言えます。

連結では普通会計よりも、投資活動の現金の支出が少ない一方、財務活動の現金の支出が多くなっています。これは、外郭団体が預金を取り崩して、区からの借入金を償還していることなどによるものです。

普通会計と連結のキャッシュ・フロー計算書の概要

